

私の飲んでいる薬の主な働き

対象者が飲んでいる薬剤の商品名を入れて対象者に渡し、何のための薬を飲んでいるのか理解してもらおう

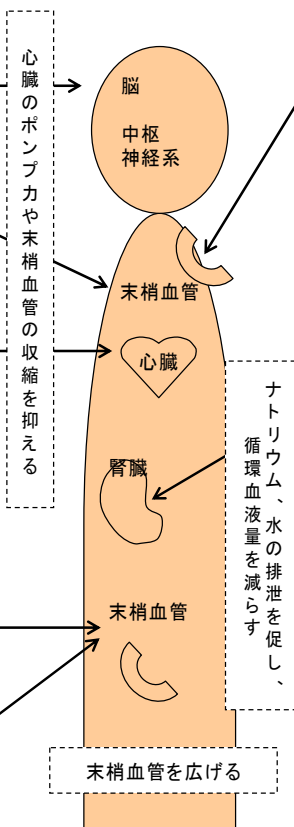
高血圧治療の目的は、高血圧の持続によってもたらされる心臓と血管の障害に基づく心血管病の発症とそれらによる死亡を抑制することである（高血圧治療ガイドライン2004）

①交感神経抑制薬

分類	作用	注意	一般名
中枢性交感神経抑制薬	中枢性交感神経抑制作用	中断症候群、口渇、倦怠感、抑うつなど	
α遮断薬	血管拡張作用	尿失禁	
β遮断薬	心拍出量抑制	うつ血性心不全	
	心拍数抑制	気管支喘息	
	レニン遊出抑制	レイノー現象	
	中枢作用	徐脈	
	カテコラミン遊出抑制		

②血管拡張薬

分類	作用	注意	一般名
カルシウム拮抗薬	血管拡張作用	狭心症	
	細胞内カルシウム流入抑制	高齢者収縮期高血圧	
古典的血管拡張薬	直接的拡張薬		



③レニン・アンジオテンシン系抑制薬

分類	作用	注意	一般名
ACE (アンジオテンシン変換酵素) 阻害薬	アンジオテンシンⅡ生成抑制	乾性咳嗽	
	ブラジキニン作用増強	血管神経性浮腫	
	交感神経活動抑制	発疹	
アンジオテンシンⅡ拮抗薬(AⅡアンタゴニスト)	アンジオテンシンⅡ作用抑制	肝機能障害	
	血管拡張作用	血管神経性浮腫	
	ナトリウム利尿作用		

④利尿薬

分類	作用	注意	一般名
サイアザイド系	ナトリウム利尿作用	低カリウム血症	
		高尿酸血症／糖尿病	
カリウム保持性	ナトリウム利尿作用	インポテンツ	
		腎機能の悪化	
		高脂血症／脱水	
ループ利尿薬	ナトリウム利尿作用	低ナトリウム血症	
		不整脈	
ループ利尿薬	ナトリウム利尿作用	女性化乳房	
		高カリウム血症	
		多毛症／インポテンツ	
ループ利尿薬	ナトリウム利尿作用	月経不順	
		低カリウム血症	
ループ利尿薬	ナトリウム利尿作用	低ナトリウム血症	
		脱水	

降圧薬治療は生涯継続しなければならないことが多いが、生活習慣の修正により、降圧薬を減量あるいは中止することも可能である。

参考資料:高血圧治療ガイドライン2004(日本高血圧学会)

教材No. B-22

【教材のねらい】

・高血圧治療薬を飲んでいる人が、自分の飲んでいる薬の性質と作用機序を知ることにより、服薬の目的について知る。

【資料の使い方】

・各保険者において、下記の例示等を参考に、薬の一般名・商品名等を入れて一覧表を完成させ、対象者に配布する。

例)

血圧治療薬 薬効分類一覧

	作用	一般名
①交感神経抑制薬	中枢性 α II刺激剤 α 遮断薬 β 遮断薬	メチルドパ、クロニジン等 プラゾシン、ブナゾシン等 プロプラノロール、ピンドロール等
②血管拡張薬	カルシウム拮抗薬	ニフェジピン、ジルチアゼム等
③レニン・アンジオテンシン系抑制薬	ACE阻害薬 アンジオテンシン II拮抗薬	カプトプリル、エナラプリル等 ロサルタン、カンデサルタン等
④利尿薬	サイアザイド系 カリウム保持性 ループ利尿薬	トリクロルメチアジド等 スピロラクトン等 フロセミド
	⋮	

参考資料：高血圧治療ガイドライン2004（日本高血圧学会）

なぜ虚血性心疾患になるのか？

B-23

虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)とは・・・

- 動脈硬化や血栓などで心臓の血管が狭くなり、血液の流れが悪くなることにより、心臓の筋肉に必要な酸素や栄養がいきわたりにくくなり、急激な激しい運動、強いストレスなどで心臓の筋肉が一時的に血液(酸素、栄養)不足となり、主に前胸部、特に左腕や背中に痛みや圧迫感等の症状が現れる。

虚血性心疾患発症のメカニズム

- 動脈硬化の中でも、**摂取エネルギーの過剰、運動不足による肥満、耐糖能異常、高脂血症、高血圧、喫煙がリスクファクター**となる**粥状動脈硬化**が特に問題。
- 高血圧によって冠動脈の血管内皮が傷害され、高コレステロール血症により**プラーク**(コレステロールが蓄積した状態)ができ血管の内腔が狭くなる(狭心症を起こしやすい状態)。
- さらにプラークに更なるコレステロールの蓄積や炎症性反応、線維化などの複雑な変化が加わり、**アテローム(粥腫)**と呼ばれる隆起した血管内の病変が現れる**粥状動脈硬化**となる。(図1)。
- アテローム(粥腫)に、**心理的ストレスや、血圧の上昇、血管の突然の収縮**(徹夜で夜更かした後や喫煙が誘因になりやすい)などの機械的因子が加わって**プラークが破裂し、そこからプラーク内部に血液が進入して急性の血栓**ができ、**瞬時に血管を閉塞し心筋梗塞を発症**することになる。(図2)

図1: 粥状動脈硬化の状態

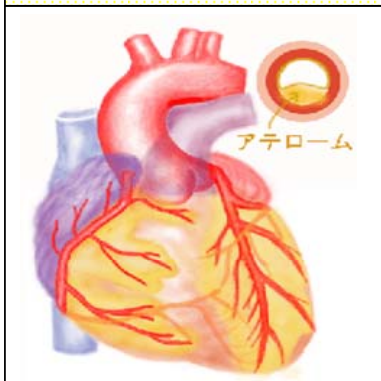
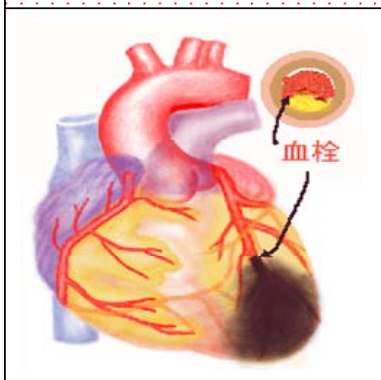
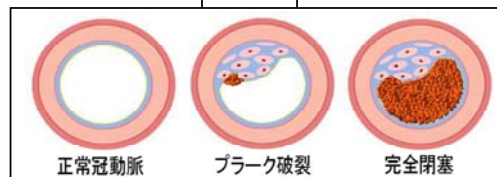


図2: 心筋梗塞が起こった状態



不安定な**プラーク(粥腫:アテローム)**の破綻によって血液の凝固が起こり、**血栓**を作って血管の内腔が閉塞され、血流が遮断されるため、組織の壊死がおこる。
→「崖崩れ」で道路が閉鎖されるのに似て、突然起こる。「先行する胸痛(狭心症)」がある場合もあるが、「全く前兆なし」のことも少なくない。



心筋への栄養動脈である冠動脈が詰まってしまい(完全閉塞)、その冠動脈が養っている心筋が死につつある(壊死)状態。コレステロールがたまって冠動脈の内腔が狭くなっているところに血栓がくっつくことによって冠動脈の内腔を完全にふさいでしまう。

参考資料: 国立循環器病センター循環器病情報サービス「よくわかる循環器病・疾病 虚血性心疾患」

教材No. B-23

【教材のねらい】

・動脈硬化の中でも問題となる粥状動脈硬化から虚血性心疾患に至る機序を、血管内の変化を踏まえて知る。

【資料の使い方】

・虚血性心疾患になる前に予防の段階で血圧管理や動脈硬化の予防を知ってもらうため、A-2、A-3で所見が一つでもある人には必ずみってもらう。